

明治の博覧会と 明治村展示資料 について

ガラ紡績機

現在開催中の明治万国博覧会「テーマ館」に展示されているガラ紡績機（以下略して、ガラ紡）は、第一回内国勸業博覧会に出品され、国産の獨創性に富んだ機械として今日も高い評価を得ているものです。また、これは臥雲辰致が製作したものではありませんが、臥雲の発明から程なく製作されたものであると推測されることと、現在国内に二台しか残っていない手回し式であるという点で、非常に価値あるものです。

この機械が出品された第一回内国勸業博覧会は大久保利通の発案により明治十年東京の上野公園を会場に開催されました。出品されたものは「第一区 鉱業及び冶金術」「第二区 製造物」「第三区 美術」「第四区 機械」「第五区 農業」「第六区 園芸」の六つに区分され、このガラ紡は「第四区 機械」で、



ガラ紡績機

さらに十七に分類されたうちの「第三類 紡織」に分類されています。報告書によると「第四区 機械」の総出品数は二二一点、そのうち「第三類 紡織」は四十六人六十三点が出品し、約三〇%を占めています。このことから当時国内で紡織機械の需要が高かったと想像されます。また、臥雲は出品したガラ紡で鳳紋賞を受賞しています。この褒賞制度は大久保利通の意図した「国内で産業を興し、切磋琢磨し、よりよい製品を創ること」にのっとり、第一回では「名誉賞」「龍紋賞」「鳳紋賞」「花紋賞」「褒状」の各賞が設けられ、「第四区 機械」では、「龍紋賞」三点、「鳳紋賞」八点、「花紋賞」十一点、「褒状」十一点の計三十一点が受賞しています。臥雲の発明については「明治十年内国勸業博覧会報告書」に内国勸業博覧会委員大森惟中が「臥雲ノ機ハ余以テ本会中第一ノ好発明トナス：（中略）：其装置ノ尤異トスベキハ綿ヲ綿筒ニ装シテ回転セシメ糸巻ノ引力ニ由テ自然ニ糸緒を抽出スルニ在リ余費府ノ会（ファイア）ルファイア万国博覧会一引用者注）ニ於テ遍ク綿紡ノ諸機ヲ目撃セシニ概シテ皆糸緒ノ引クニ機関ヲ設クルモノニシテ未此綿筒ノ装置ヲアルヲ見ズ：（中略）：我（臥雲）引用者注）敢テ洋式ヲ学ブヲ好マズ自家ノ意匠ヲ用ヒテ足レリト此言ヤ頗ル頑梗ニ涉レドモ亦以テ自奮ノ氣槩ヲ具フルヲ見ルベシ」と絶賛しています。大森が特に評

利ヲ享クル能ハス其奇ナル実ニ憫ムヘシ」と記され、「特許制度」を設け、発明者を保護すべきであるという考えが徐々に広がりを見せていきました。ガラ紡は明治十年内国勸業博覧会の後、幾たびか改良を加えますが、逆に使いづらくなるなどあまり普及せず、旧来の形を踏襲し、動力を手回しから水

京都市電

明治二十八年（一八九五）は、桓武天皇が平安京に都を移して初めての新年を迎えてから千百年目に当たるという、京都にとって記念すべき年でした。で、様々なイベントが行われました。その最たるものが、平安神宮の創建を中心とする平安奠都千百年紀年祭の挙行と、第四回内国勸業博覧会の開催です。このイベントには、百万人以上の見物客が予想されていたのですが、その見物客を会場まで運ぶ手段といえ、京都においては人力車の他にはわずかに乗合馬車があるのみでした。そこで市街における新しい大量輸送手段として考えられたのが、電気鉄道の建設だったのです。

既に明治二十三年（一八九〇）、東京の上野公園で第三回内国勸業博覧会が行われた際、東京電燈会社の技師・藤岡市助が、アメリカから輸入した電車を会場内でアトラクションとして走らせ、大成功を収めていました。明治二十三年（一八九〇）五月二日付『時事新報』に掲載された東京電燈会社の広告に「電気鉄道ノ馬車鉄道ニ比シテ其運転費ノ極メテ小ニシテ実二三分ノ一内至二分ノ一ニ過ギザルコトハ既ニ欧米ニ於テ確定シタル事実ナリ。（中略）今爰ニ弊社同鉄道ノ設計ノ準備整頓シタルニ由リ、新設ノ電

車に切り替えたもの、糸巻きや錘などを若干改良したものが、使い続けられてきました。特に愛知県三河地方の矢作川沿岸では水車によるガラ紡を使った紡績がごく最近まで行われていたといえます。また、最近では機械紡績の均一な糸より、ガラ紡で紡出した糸の太さに少々のムラがある糸が温かみの

気鉄道又ハ旧来ノ馬車鉄道ヲ電気鉄道ニ変スル事業、設計、見積問答ノ需ニ応ズ。」とありますが、この博覧会を契機に、全国で電気鉄道建設の熱が高まり、各地で請願書が提出されました。

京都でも、アメリカのリッチモンド市で開業直前の電気鉄道を見てきた高木文平を中心として設立された京都電気鉄道会社が、明治二十六年四月、電気軌道敷設願を京都府に提出し、日本で初めて、同年七月二十九日に認可が下りました。他の願書が却下され、京都のみがまず認可されたのは、琵琶湖疎水の蹴上発電所が八十キロワットの発電機二台をもって送電を開始しており、余剰電力があったこと、街路は狭くはあまるものの極めて整然としていたことなど、他の都市よりも電気鉄道建設に有利な条件が揃っていたことが挙げられます。（『京都の歴史8 古都の近代』）さらに当時日本で考えられる最先端の市街交通手段は電気鉄道であり、明治政府が殖産興業策の一環として始めた内国勸業博覧会に相応しいものであったためと考える



京都市電

備しているのは、臥雲が西洋のものを真似たり応用したのではなく、独自の技術でつくりあげた独創的なものであるという点です。これはまさに大久保の意図した国内の産業を興すという目的に合致したものであるといえます。

「明治十年内国勸業博覧会 出品解説」によると、この機械の設計者臥雲辰致は明治九年にこの機械を発明、長野県筑摩郡北深志町（現 長野県松本市）開産社の中に連綿社を設けて、明治十年一月から水車を利用して機械を稼働し、工夫一人で甲斐や尾張の綿を用いて、細糸十八貫目（一貫目＝三二・七五kg、粗糸は七十二貫目を紡出すことができたといえます。当時手紡ぎが中心だったことから考えると、短時間でムラの少ない製品を紡出すことができるようになり、ガラ紡はまたたく間に全国に広がりました。明治十四年の第二回内国勸業博覧会では模造品なども出品され、第一回同様審査官の大森惟中が著した第二回内国勸業博覧会報告に「本類中最後二載論スヘキモノハ長野県臥雲辰致ノ綿糸機ナリ十年ノ会ニ其創造セル綿機ヲ出シ一時ノ喝采ヲ博スト雖モ政府未ダ専売ノ制ヲ設ケサルヲ以テ忽チ世人ニ模擬セラレ創造者其

あるものとして好まれていたとも聞きます。博物館明治村には手回し式のガラ紡のほか、岡崎の機械大工鈴木次三郎が臥雲から直接教えを受け製作した水車式のガラ紡、ガラ紡用の打綿機が保存展示されています。日本の独自の工夫のあとを物言わぬ機械から汲み取っていただきたいと思えます。

こともできるのではないかと思います。

そして明治二十八年（一八九五）二月一日に京都駅近くの東洞院塩小路から伏見油掛の区間でまず開業し、博覧会場に向かう路線は博覧会開幕日である同年四月一日に開業しました。現在の京都駅前から七条通、間之町通、上数珠屋町通を走り、高瀬川に沿って木屋町通を北上します。そして二条大橋から二条通を東行し、琵琶湖疎水に沿って博覧会正門から南禅寺に至る全長約七キロメートルです。この間は三区に分けられ、一区二銭の運賃でした。第四回内国博覧会を特集した『臨時増刊風俗画報第九十四号』には、「博覧会を見物せむとする人にして七條停車場（※1）を下り東洞院踏切より之に搭乗せば半時間を出ずして博覧会場に到るを得べし」とあります。時速は約十キロメートル、のんびりとした旅でした。

京都電気鉄道はその後路線を拡大し、都市の交通機関としての役割を果たしていきますが、大正七年（一九一八）、京都市電（※2）に吸収されました。現在明治村を走っているのは、京都電気鉄道時代の明治末期に製造されて、昭和三十六年に廃線となった北野線を走っていた車輛です。

※1 東海道線の京都駅
※2 明治四十五年（一九一〇）に京都市が開業

明治万国博覧会

開催中 11月30日まで

各展示館のみどころ紹介

テーマ館 【14 千早赤阪小学校講堂】
このテーマ館の内部は国内の博覧会の集大成ともいわれる第5回内国勲業博覧会の入り口をかたどったものです。館内では、博覧会を機に広まったものなどの展示の他、映画を発明したリュミエール兄弟が撮影した1900年の「パリ万国博覧会」の貴重な映画を上映しています。



機械館 【43 鉄道新橋工場】
機械館には明治の様々な機械類が展示され館内は機械音が流れ、工場の雰囲気が味わえます。ボランティアによる蒸気ハンマーの実演や展示機械の解説を行っています。是非ご参加してください。
11:30～・14:00～(所要時間 約30分)

万国博のパビリオン展 【67 帝国ホテル中央玄関】
各万国博で建てられたシンボリックな建造物と、明治政府が日本の文化を表現するために、海外へと送り込んだ日本館の様子を紹介しています。

博覧会美術館 【16 東山梨郡役所】
会場では明治絵画界を代表する黒田清輝作「智・感・情」など、明治期の博覧会に出品された絵画(複製)が展示されています。当時、流行と話題を生み出した美術の一端をゆっくりとご覧下さい。

米国館 【38 シアトル日系福音教会】
北米への移民事業が最盛をむかえた1909年(明治42年)にアメリカ・シアトルで行なわれた「アラスカ・ユーコン太平洋博覧会」。日本の参加目的は、日米通商関係の強化と日本人移民の地位向上でした。

ブラジル館 【29 ブラジル移民住宅】
展示会場である「ブラジル移民住宅」は日本人移民が密林を開拓して造った家です。今回2階を初めて公開し、ブラジルの民族資料も展示しています。



ハワイ館 【40 ハワイ移民集会所】
この建物は明治22年頃、日本人牧師によって日本人のために建てられた教会です。明治時代のハワイの移民に関する資料を展示紹介しています。

衛生博覧会 【17 名古屋衛成病院】
日本赤十字社も参加した明治期の衛生博覧会の記録写真や、民間信仰のまじない医療の錦絵や玩具から近代医療へと至る資料を展示紹介しています。

子ども博覧会 【3 三重県尋常師範学校・蔵持小学校】
1909年(明治42年)光宮(大正天皇の第三皇子)誕生を祝して「子ども博覧会」が開催されました。光宮が幼少時に使用した靴や玩具、子供にちなんだ博覧会の出品物などを展示紹介しています。



「博覧会ガイドブック」発売! (市電・SLの1日乗車券つき)
「明治万国博覧会」の各パビリオンとその中での特別展示が詳しく紹介された、見学に役立つガイドブックです。村内を走るSLと京都市電の1日乗車券や各ショップで利用できる「お楽しみ割引券」が付いていて大変お得です。小人用にはクイズやスタンプもあります。
正門(ミュージアムショップ)・北口(SL売店)でお買い求めの上、村内で開催中の「明治万国博覧会」をお楽しみ下さい。

大人用 700円
小人用 500円

明治村見学をもっと楽しくする 各種ガイドのご紹介

建物ガイド
〈西郷従道邸・東松家住宅・呉服座・西園寺公望別邸「坐漁荘」〉
普段入れない建物の内部をガイド付きで公開します。
時間(各所とも)
11:00 11:20 11:40 13:00
13:20 13:40 14:00 14:20
(所要時間 各約15分)



プレミアムガイドツアー 〈要予約〉
明治の貴重な建造物など文化財を、案内付きの電動車で巡る予約制のガイドツアーです。見学コースはお客様のご希望に合わせて設定いたします。所要時間は1時間30分。料金は4名様まで10,000円、5名様12,000円、6名様14,000円です。(入村料別)

ボランティアガイド
★村内定期ガイド 正門前ボランティアブース出発
11:00～・13:30～(所要時間 約30分)
正門から学習院長官舎までをご案内するガイドツアーです。
★幸田家訪問 ②幸田露伴住宅「蝸牛庵」
10:10～14:50
幸田家の人々の生活ぶりをご案内します。
★予約制ガイドツアー 〈要予約〉
団体のお客様を対象にした予約制のツアーです。ボランティアガイドとともに明治村の貴重な建造物をもう一步踏み込んで見学してみませんか。所要時間は1時間～1時間30分。モデルコースもいろいろ取り揃えています。

博物館明治村では、すでに懐かしさを通り越し、歴史の教科書の中だけの世界になりつつある明治時代を少しでも体感していただくように、これまでもさまざまな体験型展示を展開してきました。西郷従道邸の豪華な食堂、東松家住宅の商家の店先などの室内再現展示は大変好評をいただいておりますが、さらに「明治時代は何を食べていたの?」「電灯はいつからついたの?」「どんな服を着ていたの?」という当時の暮らしに対する素朴な疑問に答えるために登場したのが、三重県庁舎内の体験展示室「明治の暮らし」よう「体験」です。平成十一年に開設した第一弾を改良し、年齢を問わず、もっと明治を体験できて、もっと明治で遊べる「体験展示室」をめぐらして、平成十五年三月にリニューアルオープンしました。明治時代の子供たちの一日をたどりながら、くらしを体験する展示をしています。では、各コーナーをご紹介します。

あそびのコーナー
朝は一日の始まり。桶での水汲みなど、子供たちにもいろいろなお手伝いがありました。身支度を整えて、人力車で出かけるハイカラさん気分も体験できます。

おそびのば…昔懐かしいお手玉・けん玉・おはじきで自由に遊んでいただけます。

服のば
「明治の衣装はどんなのかな?」…明治時代を象徴する服装(女学生の矢絁と袴・書生服・ドレス・フロックコート)をマグネットシートで作った「巨大着せかえ人形」です。組み合わせて遊びながら明治の衣装を知ることが出来ます。



おつかいのコーナー
学校から帰ってきた子供たちのくらしを紹介しています。いろいろな遊びやおつかい、アイロンがけのお手伝いなど、大忙しな子供たちのくらしを体験できます。

明治の便器展示…明治時代の染付便器を展示して、角張った形から現在の丸い形になった経緯を紹介しています。

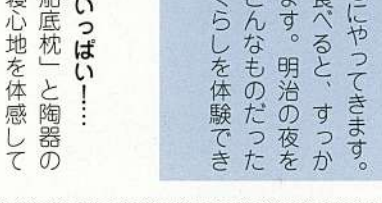
人力車にのってみよう!
桶をかついでみよう!…子供のお手伝いだった水汲み、そして肥料に使った肥を運ぶ桶として使われた桶かつぎを体験できます。



夜のコーナー
明治の晩は日暮れとともやってくる。家族そろって晩ご飯を食べると、すっかり辺りは暗くなっています。明治の夜を照らした「あかり」はどんなものだったのでしょうか? 晩のくらしを体験できるコーナーです。

晩ご飯の再現展示
今も昔も枕はアイディアいっぱい!…髪を結っていた頃の「船底枕」と陶器の枕を展示しています。寝心地を体感してください。

明治のあかり体験
「明治の夜を体験しよう!」…明治の灯火具を展示して、その明るさだけでなく、使用された油の匂いまで体験できるブースです。体験できる灯火具は手燭(ろうそく)・石油



着物バラバラ事件…マグネットシートを使用したパズルです。バラバラになった着物のパーツを組み合わせて仕立て上げてみましょう。

明治のおつかいゲーム…土日を中心に開催しています。スタッフがゲームを進行し、参加者は明治の献立を「書いたカード」を選び、制限時間内に食材カードの中から該当する材料を「おつかい」するゲームです。

アイロンやコテをつかってみよう!
明治時代のアイロンやコテに触れる展示です。明治から昭和にかけての様々なアイロンも展示して、その移り変わりを見ることが出来ます。

ランブ・エジソン電球の四種類です。明治時代の教科書(複製)と一緒に展示していますので、見え方を比べてみてください。

※ワークシートを二種作製し、会場で配布しています。

「こ」で体験できるものは明治のくらしのほんの一部ですが、見ていただけではわからない、いろいろな発見が待っていると思います。また、総合学習などの教育普及活動として、事前にお問合わせただければ展示解説や明治村で明治時代を体験するポイントをご紹介しますので、ぜひ活用ください。

★最後にお願ひ…
古いものですので、体験する時は大切に、明治時代のようにゆったりとした気分で取り扱ってください。

平成十四年度文化庁芸術拠点形成事業



予約 ☎(0568)67-0314 明治村のホームページからも予約ができます。 www.meijimura.com

A La Meiji-mura

安田銀行会津支店の外部は土蔵造りという日本の伝統的な工法でつくられています。内部の設計には西洋建築のすぐれた所がうまく取り合わさっており、明治時代の新しい銀行に相応しい建物になっています。

使用材料の「漆喰」は当で、「石灰」の唐音から「しつくい」になったといわれます。消石灰と苧（きざんだ麻糸などの繊維質）と糊を練り合わせたもので、石灰岩または貝殻を焼いて作った生石灰を水で反応させてできた消石灰は、土壁よりも水に強く、衝撃にも強くなっています。

「土蔵造りのなまこ壁」は、厚い土壁の表面に黒い漆喰が塗られた土蔵造りになっています。これは江戸時代からの耐火構造であって、その外壁の腰壁に使われている白く太い網目状の壁が「なまこ壁」です。なまこ壁は、壁面に方形の縦瓦（タイル）をはり、その継ぎ目に白漆喰をかまはこ形に盛り上げた壁で、縦瓦の継ぎ目は四方連続模様となり、建物の外壁に際立つた装飾的效果を与えます。古い型は正方形をそのまま積み並べた格子状の「いも張り」ですが、斜めに積み上げ菱格子となる「四半張」が一般的です。菱形は×型の連続にみえますが、この×型のデザインは、社寺や高貴な方専用の、普段は開けることのない門の扉などに使われ、この世とは異なった世界、あるいは普通人とは異なる世界を表すシンボルであったようです。これは、滅多な事では触れてはならぬということから、禁止を意味するデザインに転化します。この他にも、戸障子の引手に使われる×も「無用の者、出入り禁止」をほめめかせた庶民版と考えられ、この菱形のなまこ壁も同じような感覚で、「娘飾」（土蔵破りを専門とする漆職）よ、入るな」という意味も考えられます。

土蔵造りのなまこ壁

②安田銀行会津支店の外部は、厚い土壁の表面に黒い漆喰が塗られた土蔵造りになっています。これは江戸時代からの耐火構造であって、その外壁の腰壁に使われている白く太い網目状の壁が「なまこ壁」です。なまこ壁は、壁面に方形の縦瓦（タイル）をはり、その継ぎ目に白漆喰をかまはこ形に盛り上げた壁で、縦瓦の継ぎ目は四方連続模様となり、建物の外壁に際立つた装飾的效果を与えます。古い型は正方形をそのまま積み並べた格子状の「いも張り」ですが、斜めに積み上げ菱格子となる「四半張」が一般的です。菱形は×型の連続にみえますが、この×型のデザインは、社寺や高貴な方専用の、普段は開けることのない門の扉などに使われ、この世とは異なった世界、あるいは普通人とは異なる世界を表すシンボルであったようです。これは、滅多な事では触れてはならぬということから、禁止を意味するデザインに転化します。この他にも、戸障子の引手に使われる×も「無用の者、出入り禁止」をほめめかせた庶民版と考えられ、この菱形のなまこ壁も同じような感覚で、「娘飾」（土蔵破りを専門とする漆職）よ、入るな」という意味も考えられます。



東松家住宅と茶道

艶やかな杉皮と、黒漆喰で装われた重厚な外壁を持つ建物は、レンガ通りの中程にある⑩東松家住宅です。名古屋市の堀川運河沿いの舟入町に位置していた東松家は、一階には、いかにも商家らしい佇まいが広がり、往時の繁栄ぶりを思わせまます。そして二階、三階は趣が異なり茶室が設けられ、商家の好尚の程を偲ばせる空間が広がります。

明治時代になると、日本の伝統的な文化が旧弊なものとして排斥されるようになり、茶道は一時期衰退しましたが、明治二十年以降になって、政・財界人の中から美術品収集の趣味がおこり、茶道の復興に結びつきました。教養者の猛烈な収集熱は、美術品としての茶道具の認識を深めると同時に、仏教美術や王朝美術などを広く取り入れた美術鑑賞の場としての茶道を産み出しました。名古屋博物館に所蔵されている東松家の茶道具「四季草花時絵菓子重」や「玄々斎花押ぶり香合」等をも、江戸期に武家でしか持ち得なかった茶道具を、明治以降の商家のコレクションに見出すことができるのはその影響によるものと思われまます。

このような気風のなか、教養と娯楽を兼ねる場所としての茶の湯の場を、町屋の中に造り上げていきました。

裏庭側の階段から二階に上がると、奥の茶室にむかう廊下が続きます。故意に雁行させた廊下を進むと、日常生活から「聖」なる空間に導く露地を思い起こさせます。待合に続く小間の茶室は、四畳半のうち一畳を原畳床風（※）の出入とした三畳半茶室で、室内の広さを演出しています。またこの狭小な空間の中に下地窓や連子窓といった多種の窓をさりげなく組み合わせる事によって、広さとともに変化のある空間を造り出しています。こうした町屋の二階の茶室は、生活の場でありながら日常的なスケールを超えた高い意識の空間として形成されてゆきました。その空間の扱い方と美意識の鋭さは驚嘆すべきものがあります。

※原畳によって考案された床で、一畳大の地板を入れそれに床柱を立て床の形式にするもの。



清水医院の洋風デザイン

明治三十年頃、木曾谷唯一の洋風病院を開設した清水半次郎は明治元年、中山道木曾十一宿の一つ須原で生まれました。東京に出て済生学舎（※）で医学を学び明治二十八年内科・外科・産婦人科の試験に合格、研究を積んだ後帰郷し、この地で開業しました。

日本では古くから漢方医学が主体でしたが、明治になり政府は西洋医学を推進します。町医者たちは新しい医学・西洋医学を人々にアピールするため、こぞ洋風建築を建てました。この⑪清水医院も随所に洋風の意匠を取り入れてあります。木造の土蔵造りですが、一階部分の白い壁には目地を切って石積のようにみせ、そこに胴蛇腹、さらに軒蛇腹を設けています。また窓額縁や壁隅の柱型を洋風に模してつくり出し、表側の窓はアーチ形になっています。特に出入口の内開きガラス戸の上には半円形の欄間（ファンライト）まで取り付けてあります。アーチの技術は石や煉瓦を積み上げて造る組積式構造において、なるべく大きな開口部をとるための手段として発達したのですが、日本の木造建築においてのアーチは人々に西洋を示す効果的な意匠として用いられていました。

しかし一端内部に入ると、洋と和が逆転します。畳敷きの室内には障子や襖といった建具があり、外観はアーチ形にみえる窓は洋風の上げ下げでも開きでもない、鴨居や敷居のある和風の引き分けガラス戸になっているのです。この意外性はまさに「和洋折衷」といった感じですね。平面構成も日本の民家に多い通り抜けの土間をもった田の字型プランであり、和風内部空間を洋風外観が囲っている形です。

※長谷川泰が明治九年に開校した明治期最大規模の私立医学学校 野口英世、吉岡弥生らが卒業している。



夏の夜のお楽しみ 『宵の明治村』

8月9日(土)～17日(日) 期間中は21時まで開館。

浴衣の女性は無料、男性は団体料金でご入場いただけます。夜風を感じながらの明治村散策はいかがでしょう？

幻想的な夜の明治村 ライトアップ

帝国ホテル中央玄関・内閣文庫ほか闇に浮かびあがるロマンティック遺産。ライトアップにより建築様式が強調され、昼間とは違う表情を見せてくれます。



イルミネーション ボンネットバス&京都市電

村内を走るイルミネーションのボンネットバスと京都市電が「宵の明治村」を華やかに彩ります。

監獄内での食事はいかが？ 監獄レストラン

明治21年に建てられた『前橋監獄雑居房』を利用したレストランです。江戸時代以来の日本の牢屋の形式をそのまま伝えてある雑居房での食事は、明治村ならではの体験です。

渇いた喉を潤そう！ インペリアルビアガーデン

ライトアップされた『帝国ホテル中央玄関』前のインペリアルビアガーデンは、開放感いっぱい。



あ〜懐かしい 明治のあそび

昔なつかしいあそびに挑戦。矢場・射的をはじめ数々のあそびを『歩兵第六聯隊兵舎2階』にご用意しました。「あた〜り〜」の声と太鼓の音はるか昔を思い起こさせてくれます。

夏の思い出をつくろう 9DAYS ナイトコンサート

18:30～ 19:00～ 19:40～ おしゃれな赤レンガの建物『岩倉ホール』でソプラノ独唱や琴の演奏など、ジャンルを超えたナイトコンサートが行われます。

音と光のスペクタクル ライティングショー

19:30～ 20:00～ 20:30～ 『帝国ホテル中央玄関』前で光と音の芸術にしばし酔いしれて…

「宵の明治村」をしめくくる 花火競演 20:40～ 『帝国ホテル中央玄関』前芝生広場からの間近でご覧いただける花火は迫力満点です。

夏の明治村 SUMMER



涼を愉しむ 明治の夏の暮らしを再現

水の音、光の反射、そよ風に鳴るつりしのぶの風鈴、日差しを遮り柔らかな風を通すよしず、縁側。涼しく過ごすために知恵を出し、工夫をこらした明治の生活空間を再現しています。今に生かせるものがいっぱいありますのでぜひ見つけて下さい。森鷗外・夏目漱石住宅 東松家住宅 幸田露伴住宅「蝸牛庵」ほか

涼しさいっぱい 明治の涼霧

涼霧（ミスト）が村内の3か所、帝国ホテル中央玄関前 森鷗外・夏目漱石住宅前 札幌電話交換局横にお目見え。夏の暑さをしばし忘れさせてくれます。

薩摩琵琶演奏

第1・3日曜日 11:00～12:00～13:00～ 14:00～15:00～ 明治初期に建てられた『幸田露伴住宅「蝸牛庵」』において、井村右水氏による薩摩琵琶の演奏がお楽しみいただけます。

盛夏の味覚を味わおう！

夏ならではの味覚を盛り込んだ限定メニューが勢ぞろい！ 和食処「碧水亭」 洋食屋「浪漫亭」



明治の涼霧 森鷗外・夏目漱石住宅前

※催事は都合により変更する場合がありますので、詳細については事前にお問合せ下さい。